

死者56% 高齢者

被災3県

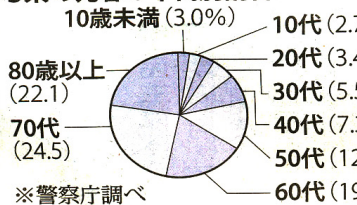
水死9割超 津波被害裏付け

東日本大震災で甚大な被害を受けた岩手、宮城、福島3県の死者のうち65歳以上の高齢者が56・1%を占めることが警察庁の調べで分かった。死因別では水死が90・6%に達し、津波による被災の激しさを示している。

地震発生から1年がたつ11日を前に、警察庁が2月29日までの3県の被災状況を分析した。身元が判明した死者1万5308人の年代別割合は70代が24・5%で最も多く、80歳以上は22・1%。65歳以上が占める割合は56

・1%で、高齢者の被害の深刻さが浮かぶ。どの手段で身元が確認できたかを分類したところ「身体的な特徴や所持品など」が89・1%▽「歯の形状」7・5%▽「指・掌紋」2・4%▽「本人の身の回り品などから採取

3県の死者の年代別割合



された試料のDNA型「0・7%▽「日本赤十字社から提供された献血」0・2%。遺体で発見された1万5786人の死因別

死・損傷死4・2%▽▽

で、70代27・3%、80

者同様に高齢層の多さが目立つ。【鮎川耕史

%▽焼死0・9%▽圧

方不明者は3263人

【鮎川耕史